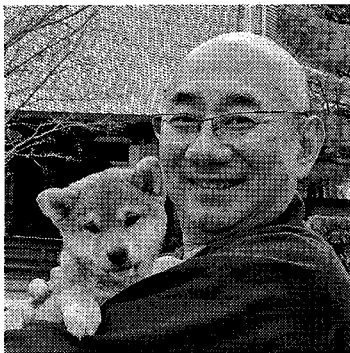


少子化時代の寺院サバイバル

展望 2024

修行僧減は少子化だけにあらず



元臨濟宗妙心寺派 山本文匡氏 寄稿

山本文匡氏 寄稿



発行所
仏教タイムス社
東京都新宿区市谷田町2-7
東ビル6F 〒162-0843
電話代表 (03)3269局6701番
FAX (03)3269局6700番
京都支局
京都市下京区若宮通松原下ル
亀屋町53番地 ファーストコート
五條若宮202号 〒600-8451
電話 (075)351局0699番
FAX (075)351局6477番
6ヵ月9,900円、1年19,800円
振替00170-6-33097番
http://www.bukkyo-times.co.jp
©仏教タイムス社 2024

令和5年上半期の出生者数は過去最低の37万人でしたので、年間出生者数も令和4年の77万人をさらに下回る見込みです。この急激な少子化は日本社会の様々な分野に影響を及ぼしています。が、仏教界もその中の一つでしょう。臨濟宗妙心寺派では、妙心寺派の道場に在籍する修行僧と他派の道場に在籍する妙心寺派の修行僧に補助を行っていますが、修行僧の数はここ20年で半減しています。多くの方は「これも少子化のせいだ、仕方ない」と考えているようですが、本当にそうでしょうか。

令和5年9月発表の文部科学省の資料を見ると、令和4年(2022)の18歳人口は112万人でした。平成14年(2002)は150万人でしたので、18歳人口はここ20年で38万人、26%減少した訳ですが、同期間の

下の収入しかありません。こうした傾向は他の教団でも同様でしょう。妙心寺派の場合、寺院は特別地から8等地まで11区分されますが、1等地以上は全体の約2割です。一方、等地が低い寺院ほど専任住職のいない割合が高く、そうした被兼務寺院の数は年々増え続けていて、今後さらなる増加も予想されます。一人の住職が多数の寺院を兼務することは負担も大きく、様々な問題の要

因にも成りかねません。これといった解決策も見当たらないのが現状です。もう一つは寺院や僧侶の社会的価値の低下です。令和5年3月に全日本仏教協会が発表した「仏教に関する実態把握調査」を見ると、高齢者は令和3年に実施した「第11回宗勢基本調査」によると年間収入が1千万円を上回る寺院は全体の約2割でした。曹洞宗が平成27年に実施した「宗勢総合調査」でも1千万円を上回る寺院は約2割にとどまり、どちらも全体

迷ったら基本に立ち返る

を獲得したいと考えるのであれば、まずは現在の僧侶や教団が変わるべきではないか、というのが私の提言です。自然淘汰に任せるといいますが、方も多いようですが、それは日本の仏教そのものが減ってしまう気もします。何故なら、生き残りをかけてお骨や葬儀を奪い合う姿は和合僧の姿ではないからです。ではどう変わればいいのか、やはり迷

て、資金と人材の共有化を提案します。もし、それが実現できたら、日本仏教は再び息を吹き返し、高齢化する社会の諸問題解決に貢献出来ると共に、必ずや後継者も現れることでしょう。

生活基礎調査」によると、これら高齢者世帯の平均年収は300万円程度で、年金等を受給している高齢者世帯の44%には年金以外の収入がありません。こうした社会状況から、戦後の寺院経済を支えてきた先祖供養も今後期待できません。そのため、仏事を司る僧侶や先祖を祀る場としての寺院の価値も低下しているのです。一般的に報酬が安く

社会的価値の低い職業を望む優秀な若者はいません。ですから、もし仏教界が将来を担う人材を育てたいと考えるのであれば、まずは現在の僧侶や教団が変わるべきではないか、というのが私の提言です。自然淘汰に任せるといいますが、方も多いようですが、それは日本の仏教そのものが減ってしまう気もします。何故なら、生き残りをかけてお骨や葬儀を奪い合う姿は和合僧の姿ではないからです。ではどう変わればいいのか、やはり迷

た時は基本に立ち返るべきです。とはいえ、今さら肉食妻帯を禁止もできませんし、大乘仏教は時代や地域に応じて変化してきました。ですから形式よりも、その本質が仏法に合っていることが重要です。仏教徒の基本は三帰依ですが、現在の教団が僧伽だと言えるかどうかは問題です。戦後、各寺院は独立した法人になりました。その結果、住職の婚姻とあいまって寺院の公共性は失われました。本来、托鉢で自分の鉢に入ったものは僧伽でシェアされるべきものです。そうした観点から法人格を各寺院単位から教区などの行政単位に移行し

やまもと・ぶんきょう / 1964年高松市生まれ。1977年下呂市禅昌寺磯部文保老師に就いて得度。1987年佛教大学仏教学科卒。虎渓山専門道場掛。1990年同暫暇。2000年妙心寺派布教師。2012〜14年常任布教師。2014〜17年教学部長。2018年高松刑務所教誨師。同年宗議会議員、現在2期目。高松市實相寺住職。

た時は基本に立ち返るべきです。とはいえ、今さら肉食妻帯を禁止もできませんし、大乘仏教は時代や地域に応じて変化してきました。ですから形式よりも、その本質が仏法に合っていることが重要です。仏教徒の基本は三帰依ですが、現在の教団が僧伽だと言えるかどうかは問題です。戦後、各寺院は独立した法人になりました。その結果、住職の婚姻とあいまって寺院の公共性は失われました。本来、托鉢で自分の鉢に入ったものは僧伽でシェアされるべきものです。そうした観点から法人格を各寺院単位から教区などの行政単位に移行し

た時は基本に立ち返るべきです。とはいえ、今さら肉食妻帯を禁止もできませんし、大乘仏教は時代や地域に応じて変化してきました。ですから形式よりも、その本質が仏法に合っていることが重要です。仏教徒の基本は三帰依ですが、現在の教団が僧伽だと言えるかどうかは問題です。戦後、各寺院は独立した法人になりました。その結果、住職の婚姻とあいまって寺院の公共性は失われました。本来、托鉢で自分の鉢に入ったものは僧伽でシェアされるべきものです。そうした観点から法人格を各寺院単位から教区などの行政単位に移行し